

■ENDOの“高効率器具”

「最大60%」の電気代削減が可能!(節電調光含む)

器具効率は1.5倍以上
器具を変えるだけでランニングコスト削減可能

<ダウンライト>の場合

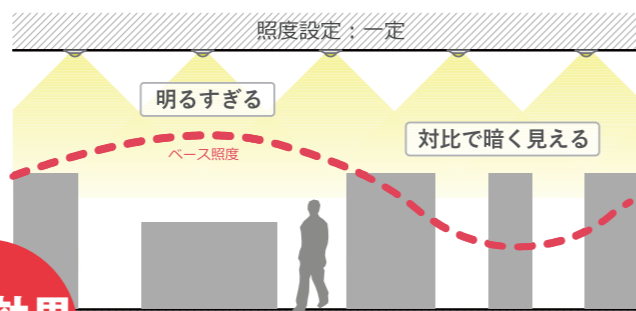
	2012年	2022年
光量	5185 lm	6197 lm
電力	63.3 W	44.4 W
効率	81.9 lm/W	139.5 lm/W

年間電気代
2012年 ¥540,000
2022年 ¥324,000
削減! 40% DOWN!
※ 算出条件: 100台 16H×365日点灯 ¥28/KWH

■ENDOの“改善”

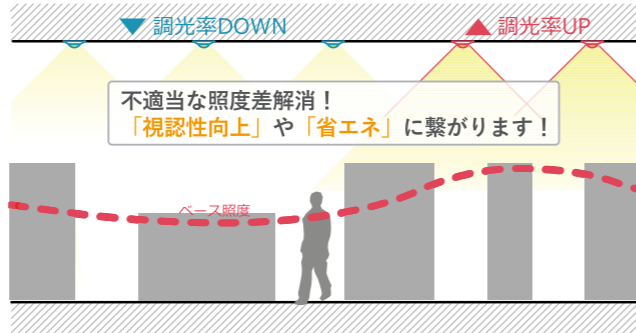
豊富な照明ノウハウをもとに運用面をアドバイス

意外と空間には無駄な光が多い。
過剰な光を抑えて、快適空間なのに電気代も削減。

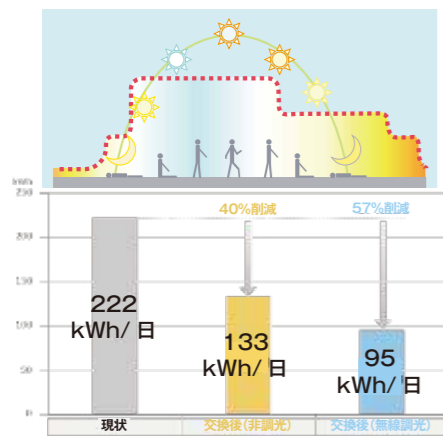


節電効果 UP!!

■無線調光 (Smart LEDZ) の場合
「エリア毎に光の適正化」をすることで、回遊性UP!

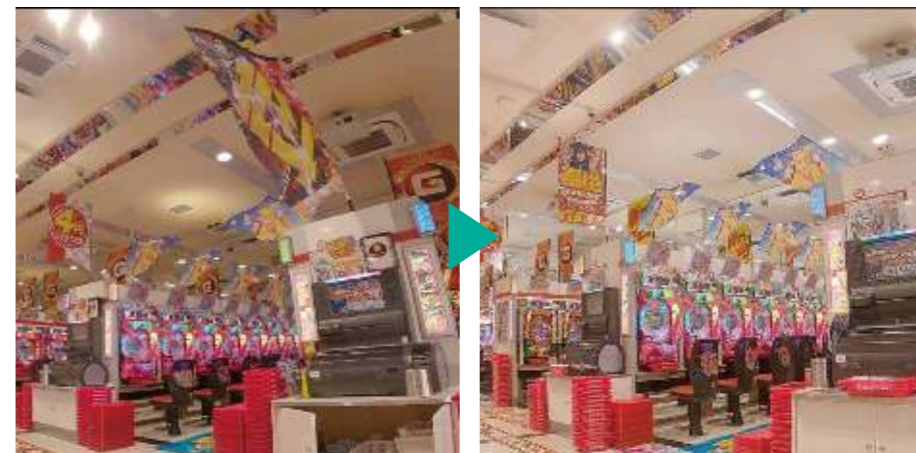


■ENDOの“節電調光”



時間帯に合わせて店内の明るさを調整する事で電気代を削減。

《グランドホール 長後店》の導入事例



Before

After

消費電力 **40% DOWN!**
CO₂ 排出量 **15 t-CO₂削減/年**

**天井や盤面を明るくし
賑わい感をアップ!**

※ 照明器具の本数が少ないリニューアル前との比較
※ 照明器具のみの電力量

同店では、天井部分のLED照明をENDOの最新器具に全て交換。さらに島上にアッパーライトを新たに設置することで、画像の通り、飛躍的に店内の明るさが向上した。ここで見逃せないのが電気代の削減効果だ。照明器具を増やし、店舗の印象を良くした上で、導入前比で消費電力40% DOWNを実現している。

LED照明の最先端を走るENDOだから実現!
今こそ、電気代50%以上の削減を
「ウチはLED照明に切り替え済みだから...」と思考停止するのはまだ早い。LEDは年々器具性能が大幅に向上。加えてENDOのノウハウが10の導入効果を実現した。高騰する電気代、黙って見過ごして良いのだろうか?

■導入事例



店舗の印象を決定づけるポイントの照明に、ENDO「Synca」を採用。柔らかな色の変化など、効果的な運用で店舗イメージを演出している。

店舗設計を見た上で、過剰な光が照らされている部分があれば、そこを抑えるなどし、最適な光バランスを実現。快適かつ、省エネを実現する。

新調光調色シリーズ 『Synca』

000K。RGB(赤、緑、青)の組み合わせで、今までにない色鮮やかな光色を表現できる。色の調整は予め設定でき、ボタン1つで切り替えが可能。開店時、新台入替時、閉店時など様々なシチュエーションで色の使い分けが自由自在だ。高い省エネ効果を大前提としつつも、ますます演出力の高まった同社のLED照明。電気代の高騰が続くなか、中長期的な視点において、その導入の検討を進めたい。

最大60%の削減効果!

この10年間でLED照明の性能が、飛躍的に向上したという点だ。性能向上=電気代削減となるため、電気代の削減に頭を悩ますのであれば、まずもって、その詳細は把握しておくべきだろう。

同社は、照明器具の設置のみならず、運用面でアドバイスできる点が大きな強みだ。照明器具の設置時は、ホール

電気料金の高騰に頭を悩ますホール関係者は多いが、その対応の答えの一つになり得るのが、LED照明のセカンドリプレイス(2度目の交換)だ。一般的なLEDの寿命は約4~5万時間。商業施設での使用を想定した場合、7年前後で寿命を迎える事となる。ここでポイントとなるのが、

ENDOは、東証プライム上場の大手LED照明器具メーカー。ホール含む全国多数の商業施設に導入実績を持つ。同社によるLED照明のセカンドリプレイスは、最大60%の電気代の削減が可能だ(左P上表参照)。秘密は、同社ならではの照明ノウハウを生かした「調光」「調色」にある。

DATA
ENDO LIGHTING CORP.
株式会社遠藤照明

●電話 03-5369-7171
●所在地 東京都新宿区若葉1-4-1
●WEB www.endo-lighting.co.jp